

■巖谷小波 日本と世界のお伽話の集大成と、童話口演の全国行脚に努め、近代日本児童文学の生みの親となった。

いわやさざなみ

初の日刊新聞1870＝ 東京の麹町で、近江水口藩の藩医の家柄で、維新後、貴族院議員で書家として著名になる巖谷一六の子に生まれる。母は出産直後に死去している。本名は季雄。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

裕福な家庭で、将来は兄同様医学を目指すべきものと育てられるが、

琉球処分・・・1879＝ 9歳：

1880＝10歳：ドイツに留学している兄が送ってきた「メルヘン集」で、ドイツ語は分からないものの、文学に目覚め、

明治14年政変 1881＝11歳：

1882＝12歳：平河小学校卒業し、獨逸学協会学校へ入学するも、

医者への道を歩ませられることをきらい、周囲の反対を押し切って、文学を志して進学を放棄、

国民之友始・1887＝17歳：文学結社「硯友社」に入る。尾崎紅葉らと交わり、

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法発布 1889＝19歳：「妹背貝」などの小説を発表、少年少女のセンチメンタルな恋愛を描く作品が多く、児童文学に転じ、

足尾鉍毒始・1891＝21歳：

*博文館が「少年文学」叢書第1編として出版した処女作「こがね丸」が、近代日本児童文学史をひらく画期的作品となり、

日清戦争始・1894＝24歳：

以降3年かけて「日本昔噺」に取り組む間、

日清戦争終・1895＝25歳：

博文館が雑誌「少年世界」を創刊するに際し、その主筆となって博文館に入り、

白馬会・・・1896＝26歳：

以降3年かけての「日本お伽噺」で、桃太郎や花咲翁などの民話や英雄譚を再話復活して集成普及し、

八幡製鉄始・1897＝27歳：

Bushidou・・・1899＝29歳：

*以降10年の「世界お伽噺」と大部なシリーズにまとめていく。作曲にあたる滝廉太郎から相談されて、

田中正造直訴 1901＝31歳：

「幼稚園唱歌」の作詞者となり、

{幼年世界} {少女世界} {幼年画報} など種々の児童向けの雑誌の主筆にもなって、それらに執筆したものを

日比谷公園・1903＝33歳：

川上音二郎らのお伽芝居によって「狐の裁判」が上演される(児童劇の先駆)。

日露戦争始・1904＝34歳：

*「明治お伽噺」などの叢書として刊行。

日露戦争終・1905＝35歳：

シラー作・巖谷小波翻案「瑞西義民伝」などへ展開。尋常小学唱歌「一寸法師」や、

満鉄発足・・・1906＝36歳：

大逆事件判決 1911＝41歳：

文部省唱歌「ふじの山」も作詞している。

明治天皇没・1912＝42歳：

この間、口演童話や児童劇の全国行脚によっても親しまれ、各地の校歌も多数手がけ、

21ヶ条要求・1915＝45歳：

大暴落・・・1920＝50歳：

自伝「我が五十年」。

原敬首相暗殺 1921＝51歳：

護憲三派圧勝 1924＝54歳：

金融恐慌・・・1927＝57歳：

博文館を退職、

共産党事件・1928＝58歳：

*翌々年にかけて、かつてのお伽噺集のなかから代表的なものが「小波お伽全集」(全12巻)にまとめられ、千里閣から出版された。

満州事変・・・1931＝61歳：

国際連盟脱退 1933＝63歳：

中国地方巡講中、腸閉塞症を起し入院、癌に因るものと判明し、没した。